



金の卵かガチョウか？

(3月のごあいさつ)

平成26年3月3日(月)

3月に入ると沖縄の空気は夏を感じさせます。

先週、タクシーに乗っていると、ラジオから4月の**消費増税のニュース**が流れてきた。アナウンサーが**3%の増税は、一般家庭に年間16万円程度の支出増をもたらせます。この増税額8兆円は、社会保障の充実に回され将来の安心につながるもの**ということだと説明して、**街の声**があった。主婦などのインタビューでは、家電や大き目の消費は3月中に考えねば、**給料はあがるかしら、家計をきりつめなければ…**などの声。隣席の中山さんも少し悩んでいた。ドライバーに、**タクシー代もアップするの？**と問うと、**距離で調整しますから、お客さんにショックを与えません。買物はどうするの？**ときくと**消費税アップ後、きっと8%還元セール**がありますから、それからゆっくりと買物しますよとのことであった。

20年もの停滞の後、日本の経済や財政は、その再建のために、**A増税か、B経済活性化か、C歳出削減か**の諸課題に改めて直面したかのように思える。その課題の解決の選択として、政府は**A→B→Cの順序**を選択した。しかし、この選択は正解であったか。

損益計算書で見ても売上高というボリューム、そして**付加価値、利益**という成果の次に、**税金という成果配分**の順である。これが、世の中の**努力と成果の図式**である。増税は、政府が成果を待つことなく、**先ず成果配分を取ると決定**したことになる。イソップ物語にある**ガチョウより先に金の卵**を求めようとしたことと同じである。

来年の2%も加えて、5%の増税ともなれば、政府に**年間14兆円もの税収増**をもたらす。そして、消費者に**年間14兆円もの支出増**をもたらす。その間にある**企業にとっては、消費税の転嫁**をすることは並大抵ではなく、**コストアップや競争激化**を招くことは必至である。**現場(ガチョウ)**を深く、肌で考えることなく、政治家や役人、一部の学者の**理屈(欲ばり)**だけでは、世の中はうまく行くものではないことの例示となるのではなからうか。

異次元の税制改正を謳い、**民間投資と消費の拡大、地域経済の活性化**等のための税制上の措置を講ずるとする大改正も、**順序を誤れば効果のうすいもの**になりかねないことを恐れる。